



NPO PTPL“ともいき”便り No. 196

令和2年（2020年）9月22日発行

■ 秋分（しゅうぶん） 令和2年9月22日から10月7日までの節気

9月に入っても暑い日が続き、相変わらずコロナ禍の日々も続いています。みなさま、いかがおすごしですか。季節は秋へと移ろい、9月19日は彼岸の入り、中日が22日で「秋分の日」、彼岸の明けが25日となります。「彼岸」という言葉を聞くとほとんどの方が「暑さ寒さも彼岸まで」とつぶやかれるのではないのでしょうか。二十四節気では22日から10月7日まで「秋分」の節気に入ります。暑さもおさまり、実りの秋を迎える頃。しだいに昼の長さが短くなっていきます。

お彼岸の頃、太陽は真東から昇り、真西に沈みます。その沈んだ方角に阿彌陀如来の極楽浄土があり、彼岸の中日の日没を拝むと極楽往生が叶えられるとされました。ですからこの期間にお墓参りをして、死者の来世における安楽を祈り、霊を慰めます。

お彼岸といえば、彼岸花。曼珠沙華とも言いますね。地下茎に有害物質を含んでいるので、シビレバナとかドクバナ、イトキゴロシ、オコリバナ、さらに墓地に咲いていることが多いので、シビトバナ、ユウレイバナなどなど、怖い名前ばかりつけられてなんか気の毒ですが、ジュズバナ、キツネノチョウチンなどの可愛い名前もつけられています。それにしても秋のお彼岸の頃になるとポッと花火があがるように咲き始めるのですから、不思議です。そして和菓子屋さんには、大好きなおはぎが並びます。

日本の秋といえば「紅葉」です。新型コロナウイルスの見通しがまだ立たない状況ではありますが、自然はいつものように季節の移ろいを私たちに見せてくれます。各地の観光協会や民間気象情報会社などが、「紅葉の見頃予想」を9月30日頃に発表します。紅葉狩りは、昔から貴族たちの楽しみの一つでした。楓、山漆、銀杏などの紅葉を愛でながら盃を交わし和歌を詠んだりしていました。そして江戸時代に入ると、庶民の間に広がって仲間や家族と山に出

かけて紅葉を楽しむようになったそうです。ずっと前に京都の東福寺の紅葉を見に行ったことがあります。自然の色彩の美しさに息をのみました。もう一度、行ってみたいです。紅葉はその年の冷え込みの程度によって美しさに差が出るそうです。今年はどうでしょうか。

そして10月1日は、旧暦の8月15日。十五夜です。十五夜と満月は一致することが少なく、今年も満月は翌日2日です。(私の目にはその違いがよくわかりませんが) この時季は空気が澄んでいるため月を愛でるには適していると言われ、昔から月下に酒宴を張り、詩歌を詠じ、すすきを飾り、月見団子や里芋、枝豆、栗などを盛り月を愛でました。秋の虫の音もさぞや耳に心地よかったことでしょう。お月見は庶民へと次第に広まっていき、農民の間では農耕行事と結びついて収穫を感謝する行事へと変化していきました。お月様、みられるといいですね。

私は月を愛でるのが好きで、年中、月を見上げています。日本では、日々形が変わる月に、さまざまな呼び名をつけていますが、それがまた面白いのです。まず、月がみえない新月、二日目の二日月、三日目の三日月、七日か八日目は、半月の弦が上向きになるので、上弦の月。13日目の月は、十三夜。そして、15日目の月が十五夜。十五夜は、日没とほぼ同時にでるのですが、16日目の月は、十五夜より50分ぐらい遅くでるので、出るのをちょっとためらっている、という意味で「いざよい」という名前がついています。17日目の月は、出るのを立ってまってもさほどくたびれない時間にでるので「立待月(たちまちづき)」。18日目の月は、月の出がだんだん遅くなるので、座ってまったほうが疲れないので「居待月(いまちづき)」。19日目の月は、日没後4時間ほどして出るので、寝て待とうということで、「寝待ち月(ねまちづき)」。

20日目の月は、夜、更けてからようやくでるので、「更待月(ふけまちづき)」二十三日目は上弦の月とは反対に、弦が下向きになるので、下弦の月。この下弦の月は、真夜中にでるので、昔は「二十三夜待ち」とよばれる月待ちの行事が行われていたそうです。月に名前をつけるなんて、日本人って面白いなと思います。きっと、月が暮らしの中で大きな役割を担っていたのでしょうね。

今は打ち合わせをするのも、短大の授業もリモートです。できることはできますが、やはり顔を合わせて話をしたいです。パソコン越しだと聴覚と視覚だけで物足りません。遠方のお孫さんとリモートでよく話をすると知っている友人も、「やっぱり抱っこしてあげたいのよね」とつぶやいていました。

普通の暮らしが戻りますように。ワイワイ、紅葉狩りに行けますように。

次回のともいき便りをお届けするのは「立冬」(11/7)のころとなります。その時には、コロナの「コ」の字から解放されたいです。くれぐれも、お身体を大切に。10月1日の十五夜をそれぞれの場所から眺めましょう。

※「ともいき便り」の行事など由来は下記「ともいき暦」を参照しました。ぜひご覧ください。

「ともいき暦 <http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2020/>」

すとうあさえ (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 会員)

ともいき・ともうみ・ともさち、そして和。それは日本的なるもの「ジャパネスク」日本人の感覚、ジャパネスク。

●コロナ禍に見る日本人の劣化?!!

コロナ禍で私たちの暮らしは一変しました。マスクしないで電車に乗った人を見た瞬間、「緊急停止ボタン」を押した人がいます。政府のだすガイドラインを守って営業している飲食店に「非国民」と中傷する貼り紙をした人がいます。また、他県ナンバーの車両に傷をつける、両親が地元で体調が悪いのに他の都道府県にいる子どもたちが見舞いにも行けないなど、日本社会の村八分意識が堂々とまかり通っている感があります。大変困ったことですね。

一方、マスクをコツコツ手作りして保育園に送った高校生がいます。無料通勤支援バスを3月から9月まで走らせたバス会社があります。どちらも同じ日本人です。

ここ10年の間、毎年のように大きな地震、洪水などに見舞われますが、日本人ならではの自助、共助の行動が見られる一方、このコロナ禍では自分本位の行動や主張が目立っているように思います。

おりしも、この原稿を書いている時、日本の新しい総理が本当に久しぶりに決まりました。新総理のスローガンは「自助・共助・公助」です。

非常時に自分だったら、そして家族だったら、さらには地域の人とともにいたらどんな行動をとるのかと改めて考えさせられます。

ただ、私たち人間には「想像力」があります。他の人たちのことを想像して「思いやりの心」を持って行動できる人でありたいと思います。その「思いやりの心」こそ、日本的なるもの「ジャパネスク」。皆さまは、どう思われますか。

日本 2020 **ジャパネスク**

「ともいき」、「ともうみ」、「ともさち」、そして「和」。
日本から世界へ、世界から日本へ。和魂世界才へ。

勝田祥三 (NPOO PTPL 理事長)

■事務局便り

今年も、4分の3が終わろうとしています。今年の夏はコロナ禍に加え、7月は異常に雨が多く、8月は異常な高温、さらには9月に入っても真夏を思わせる高温と大型台風の襲来。いま人間は自然から地球から試されているのでしょうか？ そんなことをふっと思ってしまう今日この頃です。

●日本というものを基盤において活動する NPO PTPL が企画制作運営するサイト・FBをご覧ください。

「NPO PTPL 公式ホームページ」：<http://www.plantatree.gr.jp/>

「ジャパネスク」：<http://www.japanesque.tokyo/>

「ともいき暦」：<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2020/>

「タピラス」：<http://www.tapirus.tv/>

「ともいき ぐらし」：<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

「おらが富士 計画 ふるさと富士山探し」

<https://www.facebook.com/oragafuji/>

「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」

<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo/>

「日本とは、日本人とは、その心とは何か？」

<http://www.japanesque.tokyo/files/chart5.pdf>

●会員募集のご案内

NPO 活動（ジャパネスク運動）を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。お力添えのほど、どうぞよろしく申し上げます。

詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAX にてお尋ねください。

NPO PLANT A TREE PALNT LOVE 事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-7-11 東都ビル 201 号

電話：03-6432-5911 FAX：03-6432-5912 Email：info@ptpl.or.jp